

中尾小だより

〒336-0932 さいたま市緑区中尾2596-1

HP <http://nakao-e.saitama-city.ed.jp>

TEL 048-873-0216

FAX 048-810-1120

知・徳・体の調和のとれた
心豊かな児童の育成

学びいっぱい 優しさいっぱい 元気いっぱい

表現する喜びを ～なかおっ子音楽会を通して～

校長 石田 成夫

6月半ばには真夏を先取りしたような暑さが続いたかと思えば、次の週には一転して梅雨らしい雨の日が増え、不安定な天候が続いております。先週から始まった個人面談では、保護者の皆様のご協力を賜り感謝申し上げます。保護者の皆様におかれましては、この面談や通知表「あゆみ」を通してお子様の1学期を振り返り、成長を認め、課題が残ったところは励まし、子どもたちが新たな目標をもって2学期を迎えられるように背中を押していただければと思います。

さて、6月21日(土)に本校体育館で「なかおっ子音楽会」が開催されました。当日は、体育館横の湧き水の増加による子どもたちの入退場ルートの変更、暑さ対策として会場への水筒や保冷グッズの持ち込み、教員の感想発表を省いたプログラム短縮など、多くの変更が行われましたが、子どもたちは臨機応変に対応し、無事に音楽会を終えることができました。



本校の音楽会は、さくらんぼ学年でペアを組み、保護者の皆様、学校運営協議会の委員の皆様にご協力いただき、子どもたちの合奏や合唱を聴いていただく形となっております。低学年は、リズムに合わせて体を揺らしながら元気いっぱいに歌声を響かせ、まだ慣れていない覚えたての楽器を楽しそうに鳴らしていました。また、高学年は楽器の扱いにも慣れ、それぞれが担当する楽器で見事な演奏を披露し、合唱では体全体を響かせるような力強く澄んだ発声と、複数のパートに分かれた美しいハーモニーを聴かせてくれました。

音楽は、「音」を「楽」しむと書きます。たとえ演奏が拙くても多くの聴衆を感動させるアーティストが数多く存在するように、楽器でも、歌声でも、奏でられた音楽には、それを発信する人の気持ちと一緒に伝わっていきます。今回の音楽会では、中尾っ子の一人ひとりが音を楽しみ、その感じた音の楽しさを、目の前で聴いてくれたさくらんぼ学年や保護者、学校運営協議会の皆様にご伝えることができたのではないのでしょうか。そして、音楽だけではなく、言葉で、文章で、絵で、動きで、表情で…様々な形で自分を表現する喜びを感じ、その想いを受け取ることができる豊かな感受性をもった中尾っ子になってほしいと思います。

7月18日(金)の終業式をもって、子どもたちは夏休みとなります。今年も猛暑が予報されておりますので、保護者、地域の皆様は熱中症等にご注意ください。併せて、中尾っ子たちが楽しく安全な夏を過ごせますよう、保護者、地域の皆様による見守りもお願いいたします。

「命」をいただくということ ～5年生の館岩自然の教室から～

6月5日(木)から7日(土)までの3日間、5年生と一緒に館岩自然の教室に行っていました。さいたま市とは異なる自然の雄大さ、美しさ、厳しさを体験するとともに、家庭を離れて過ごす館岩の生活は、子どもたちの自立と成長につながったと思います。中でも貴重な体験となったのは、2日目の川魚さばきです。子どもたちは生きた川魚をさばき、竹串を通し、焼きあがった魚を美味しくいただきました。

現代の食生活では、生き物をさばくという機会はかなり少ないと思います。豚も牛も鶏も魚も、切り身となったものや加工されて別の形になったものをお店で購入できる便利な時代となりました。その一方、食材として売られる前の生きている状態や、加工される過程を見る機会は減っています。人間は食事を通じ、生き物の「命」をいただいているということ。いただいた「命」は、食べた人の血や体をつくり、活動するエネルギーとなって食べた人の「命」を支えているということ、子どもたちは体験を通して学ぶことができました。食べ物から「命」というものの現実感が失われ、過剰な生産によるフードロス等の問題も起きている現代ですが、「食」と「命」の密接な関わりと、食材として「命」をいただくことの意味をあらためて見つめ直したいものです。

